

増える正社員の “日雇いバイト”



ス

マホのアプリで単発のバイトを探し、給与の即日払いもOKというスポットワークでも働く人が増えている。事業者で組織するスポットワーク協会によると、登録会員数は2023年3月末時点で約990万人だったが、24年9月1日時点で約2,500万人に。単純に計算すると日本の就業者の約4割を占める。

求人事業者と働き手をマッチングさせるこの事業は「短時間・単発の就労を内容とする雇用契約の仲介事業」（スポットワーク協会）と定義し、業務委託契約ではなく、求人事業者と雇用契約を結ぶ労働者という位置づけだ。短時間や1

日だけ働く雇用仲介といえば、かつて東京の山谷や大阪の釜ヶ崎のドヤ街に暮らしていた日雇い労働者を想起してしまう。デジタル版日雇い労働者といえなくもない。

どんな人がどんな業種で働いているのか。業界大手のタイミー

の求人業種は物流（単純・簡易作業）が49%、飲食22%、小売21%と、人手不足業種が90%超を占めている（2024年9月12日、第3四半期決算説明資料）。登録者の性別は男性52%、女性48%。年代は20代26%、30代20%、40代24%、50代20%、60代以上5%と、中高年層も多い。同社の調査によると、驚くことにスポットワーカーの54%が正社員ということだ。政府の後押しで副業容認企業が増えているが、スポットワーカーも多いようだ。

パーソルインベシジョンの「副業に関する定点調査」（2024年8月、20〜40代男女）によると、副業を実施した人は35%。その理由では「自由に使えるお金を増やしたい」が43・3%、「副業しないと生活が成り立たない」と回答した人も24・7%も存在する。物価高もあり、少しでも収入を増やすために日雇い仕事に手を染めざるを得ない状況は、なんとも複雑な気持ちになる。